

北朝鮮による日本人

拉致問題

市では拉致被害者の早期帰国を目指して様々な活動に取り組んでいます。

市民の皆さんのご支援とご協力をお願いします。

【問い合わせ】 市福祉政策課 0994-311113

拉致問題とは

北朝鮮によって肉親を連れ去られ、30年経つても今なお消息は分からず、いたたまれない日々を送り続ける家族があります。

政府に拉致被害者として認定されている市川修一さんは輝北町出身で、始良町出身の交際相手だった増元るみさんと吹上浜に出かけ昭和53年8月以来消息を絶っています。

その後、北朝鮮側は、1979年7月に2人は結婚し、市川修一さんは同年9月に心臓麻痺で死亡し、増元るみさんは1981年に心臓麻痺で死亡したとしています。これを裏付ける資料等の提供はなされていません。

日本国内には、市川さんのような政府認定の拉致被害者が17人おり、うち5人は平成14年に帰国されました。このほか、拉致の疑いが高いとされる特定失踪者は、250人を超えるとされており、この

中には、園田一・敏子さん夫妻（家族が鹿屋市在住）を含む10人の県関係者もいます。

近年の状況として、昨年、北朝鮮の指導者が変わり、今年に入って日朝協議が再開するなど拉致問題の解決に向けた気運が高まっています。

このような中、市川さんや園田さんのご家族は、家族の無事を信じ、一刻も早い帰国のために署名活動などを通じて、国民に理解と協力を求め、国に訴え続けています。

市の取り組み

○拉致問題庁内連絡会議の設置

○署名活動への協力

（エアーメモリアルinかのや、鹿屋市保健福祉フェスタ、鹿屋市農業まつり）

○「北朝鮮人権侵害問題啓発週間」（12月10日～16日）

における懸垂幕の掲示、パネル展の開催

○市職員による募金及び署名への協力

日朝間の動き

○平成14年9月

第1回日朝首脳会談で、北朝鮮側が日本人の拉致を認める。

○平成14年10月

日本政府が認定する拉致被害者のうち5人の帰国が実現。

○平成16年5月

第2回日朝首脳会談において、拉致被害者の家族が帰国・来日

○平成20年6月・8月

日朝実務者協議において、北朝鮮側が調査のやり直しを表明。

○平成21年10月

新たな拉致問題対策本部が内閣に設置される。



▲署名活動の様子

啓発講演会のお知らせ

- 日時 平成25年1月23日(水) 13:30～16:00
- 場所 リナシティかのや3階大ホール
- 内容 ○講演会 講師:市川健一氏「家族の絆」
(拉致被害者 市川修一さんの兄)
○上映会 「めぐみー引き裂かれた家族の30年」

～ストーリー～

1977年11月15日朝、いつものように学校へ出かけた、当時13歳、中学1年生の女の子が、夕方、学校からの帰宅途中に突然姿を消しました。

横田さんご一家の平和だった日々は、その瞬間から一変し、あらゆる事態を想像しながら、無事を祈り、帰ってこない娘めぐみさんを捜し続けることになりました。その実態が「北朝鮮による拉致事件」という途方もないものとは思ひもしないで・・・。

それから30年。果てしない闘いの日々が続きます。



Interview

市川 健一 さん
拉致被害者
市川修一さんの兄



市川修一が北朝鮮に拉致されて34年。また、金正日総書記が拉致を認め謝罪してからすでに10年の歳月が流れておりますが拉致問題は何も進展がありません。

被害者は今も日本からの救出を待っています。被害者家族は一刻も早い救出を願い東奔西走の毎日であります。昨年、北朝鮮の指導者が代わり、情勢を見守っていたところ、最近、日朝協議が再開するなど、何らかの進展が期待されています。今こそ拉致被害者の帰国実現に向けて、政府を動かしていくためにも、“一刻も早く救出せよ”と一斉に声を上げてください。